

# 平成26年度 介護老人保健施設を対象としたアンケート調査結果報告

今年度の一般社団法人千葉県言語聴覚士会・介護保険委員会では、  
 ①介護保険領域の言語聴覚士（以下、ST）の把握と現状を知ること、  
 ②これらの情報をSTおよび関係スタッフが連携・情報共有に活用できるようにすること、  
 を目的に県内にある介護老人保健施設を対象にアンケート調査を継続拡充いたしましたので、  
 ここに調査結果をご報告いたします。

## 【調査方法】

調査対象は、介護保険委員会調べによる介護老人保健施設142施設とした（昨年度より7施設追加）。  
 調査項目は前年度に調査した内容、(1)STの勤務の有無、(2)勤務形態、(3)職務内容、(4)対象領域、(5)STが勤務していない理由、(6)自由記述に、追加調査として(1)地域支援事業について(2)地域連携について、を新たに加えた。

調査は返信用封書で実施した。調査期間は平成26年9月から約3週間であった。アンケート回収率は、142施設中85施設で59.9%であった（図1）。

<地域別の調査対象施設数> ※（ ）内は返信数

東葛北部地域 28施設(18)、  
 東葛南部地域 21施設(11)、千葉地域 27施設(14)、  
 香取・海匝地域 11施設(7)、  
 印旛・山武地域 22施設(11)、  
 夷隅・長生・市原地域 17施設(13)、  
 君津地域 9施設(5)、安房地域 7施設(6)

「東葛北部」「香取・海匝」「夷隅・長生・市原」「安房」では全体平均の回収率を上回り高かった（図2）。

## 【調査結果】

### 1. 言語聴覚士について

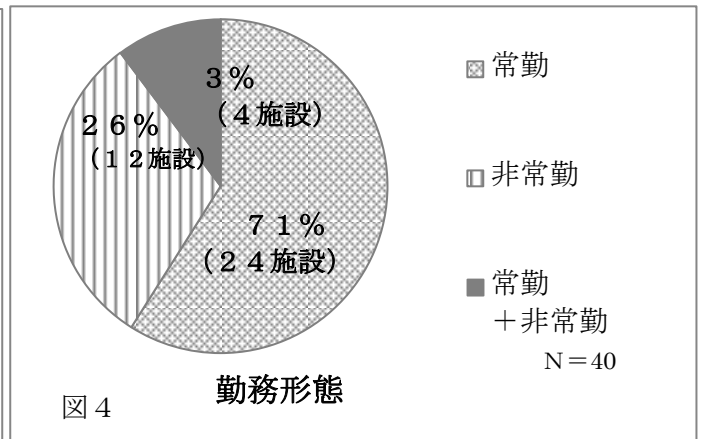
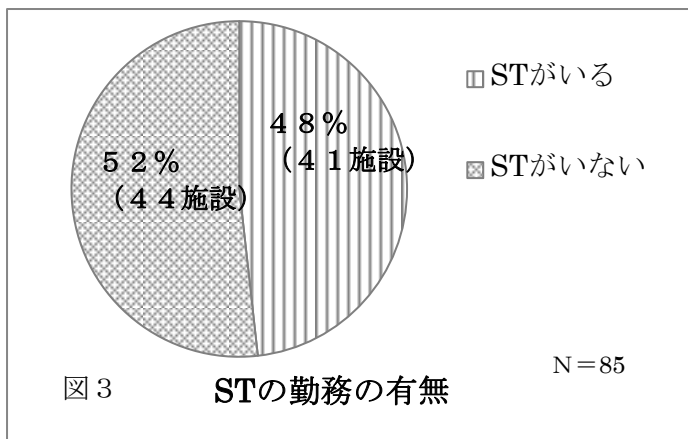
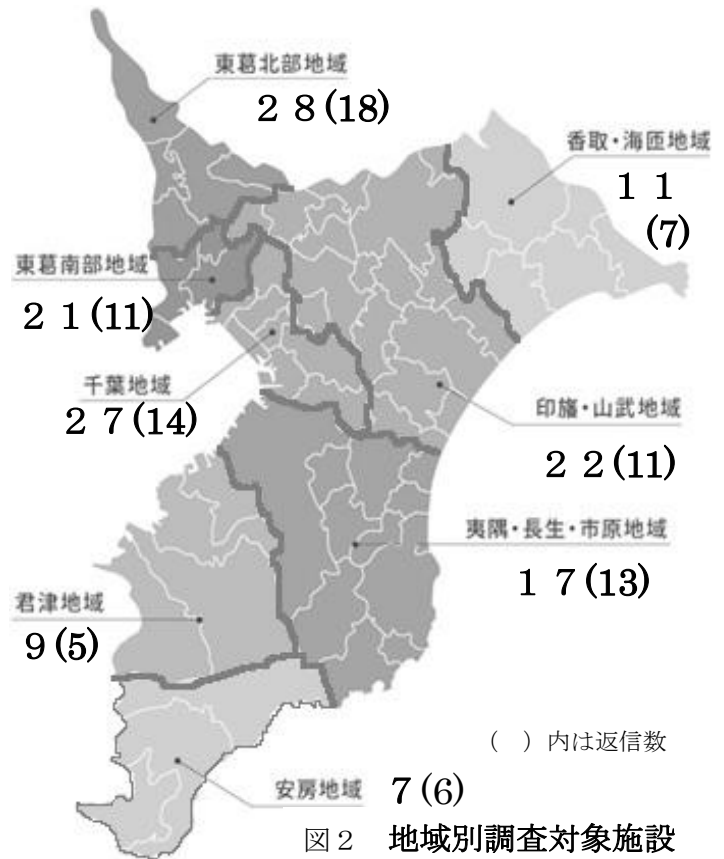
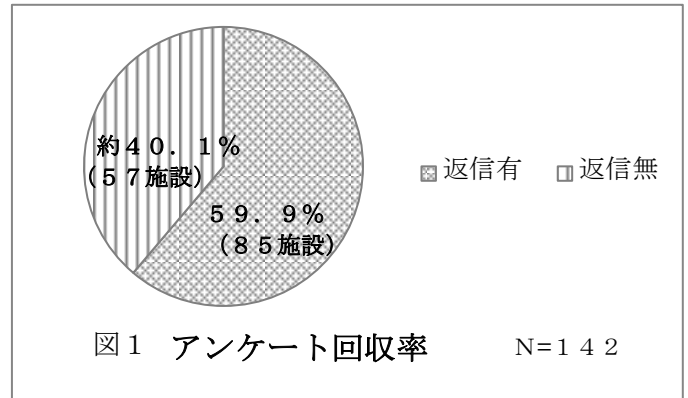
#### (1)ST勤務の有無

勤務していたのは41施設、  
 勤務していないのは44施設（図3）。

#### (2)勤務形態

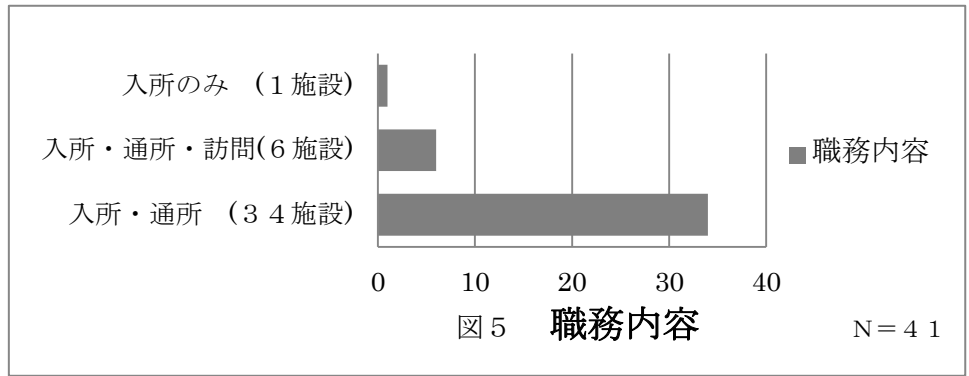
「常勤」が最も多く24施設、「非常勤」は12施設、「常勤+非常勤」は4施設 「指導のみ」は1施設。  
 「常勤」の人員は、1名が23施設、2名が3施設、3名が0施設、4名が1施設、5名が1施設。

「非常勤」の人員は、1名が13施設、2名が3施設、「非常勤」の勤務日数は、5日/週が1施設、4日/週が2施設、3日/週が3施設、2日/週が3施設、1日/週が3施設、半日/週が2施設、2～3日/週が1施設、3～4日/週が1施設であった（図4）。



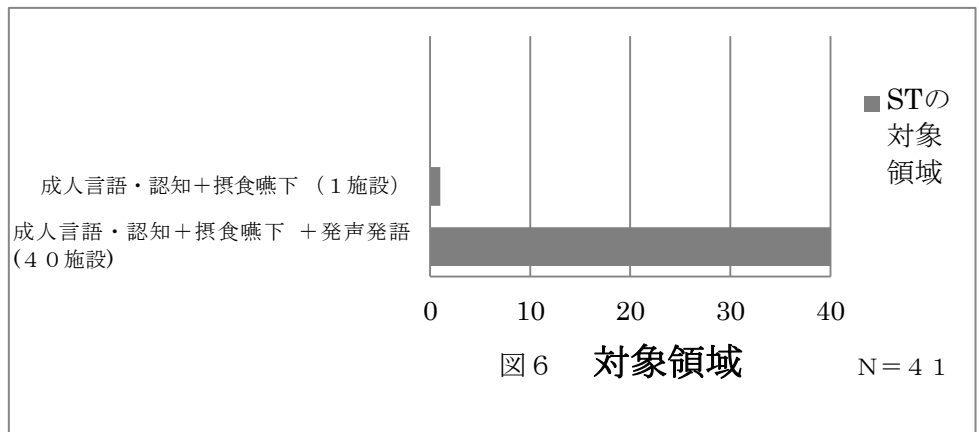
**(3) 職務内容**

入所のみが1施設、  
入所・通所・訪問が6施設、  
入所・通所が34施設であった  
(図5)。



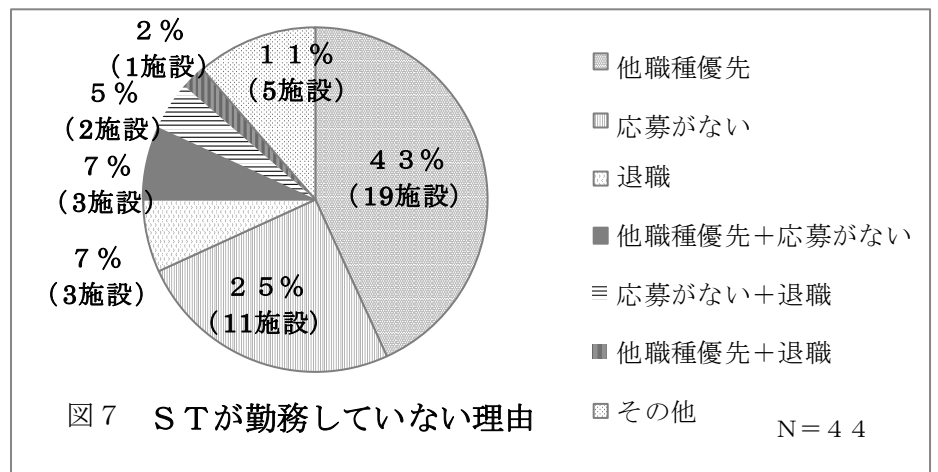
**(4)対象領域**

成人言語・認知、摂食嚥下が1施設、  
成人言語・認知、摂食嚥下、  
発声発語が40施設であった  
(図6)。



**(5)STが勤務していない理由**

該当施設は44施設であった。  
その理由は、  
他職種優先 19施設、  
応募がない 11施設、  
退職 3施設、  
他職種優先+応募がない3施設、  
他職種優先+退職 1施設、  
応募がない+退職 2施設、  
その他(無記入も含む)5施設、  
であった(図7)。

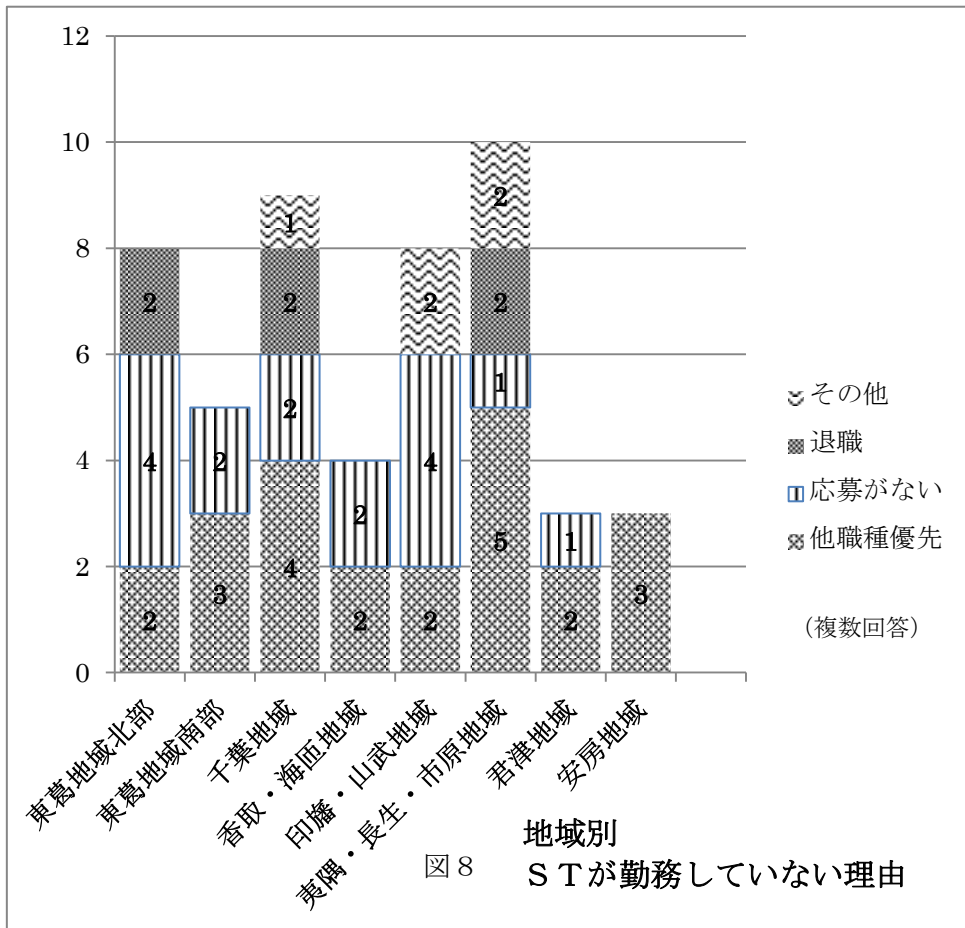


(6)地域別STが勤務していない理由

どの地域においても「他職種優先」があった。

東葛地域北部、印旛・山武地域では、「STの応募がない」が、わずかに多かった。

また、STの退職によりSTが不在となっている地域があった(図8)。



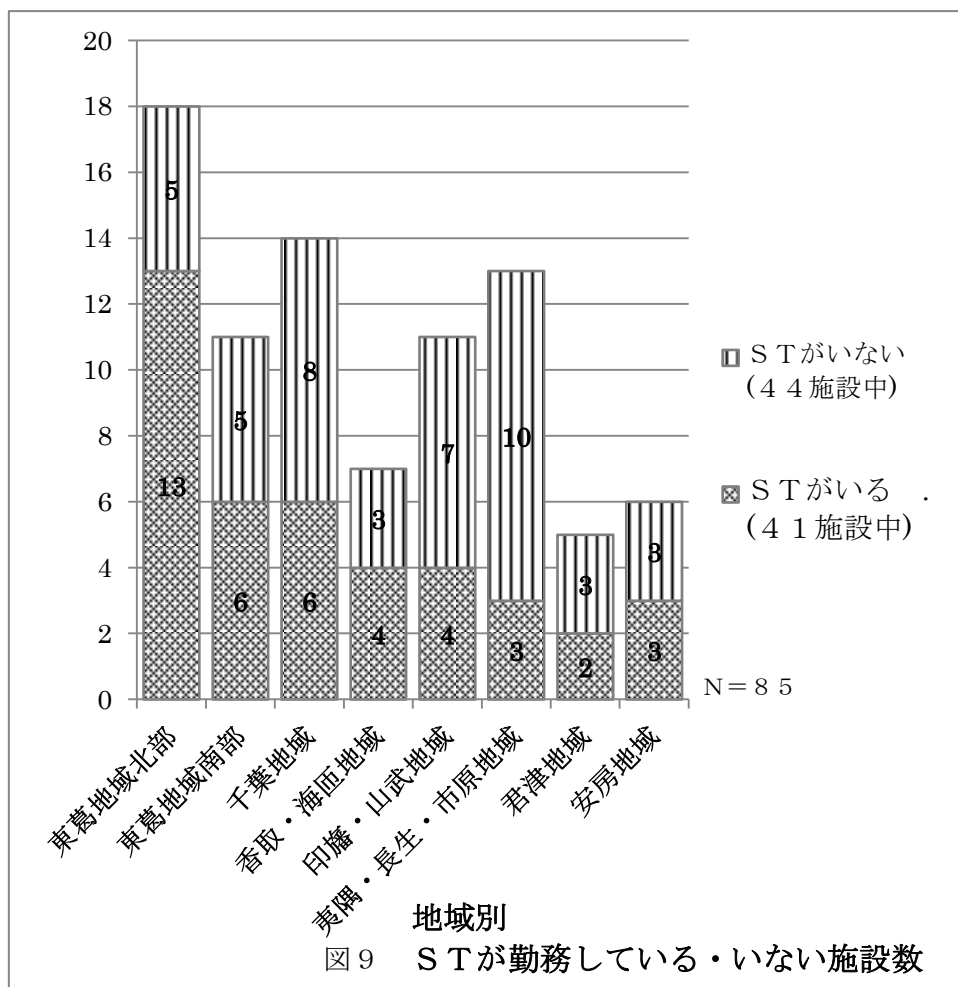
(7)地域別STが勤務している・いない施設数

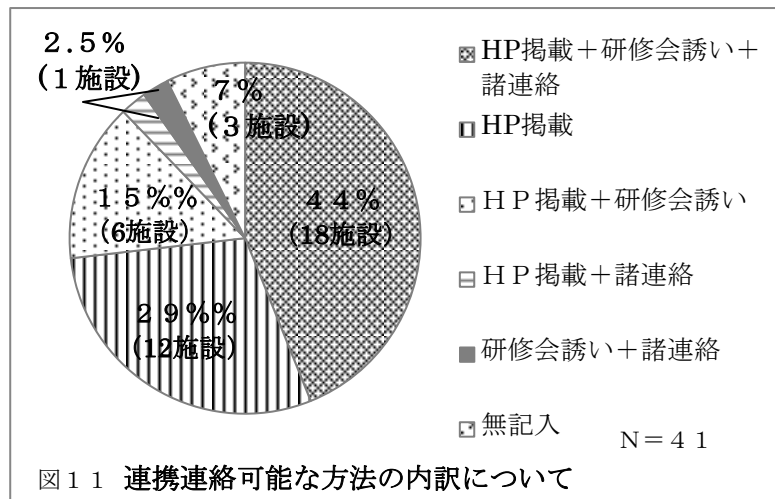
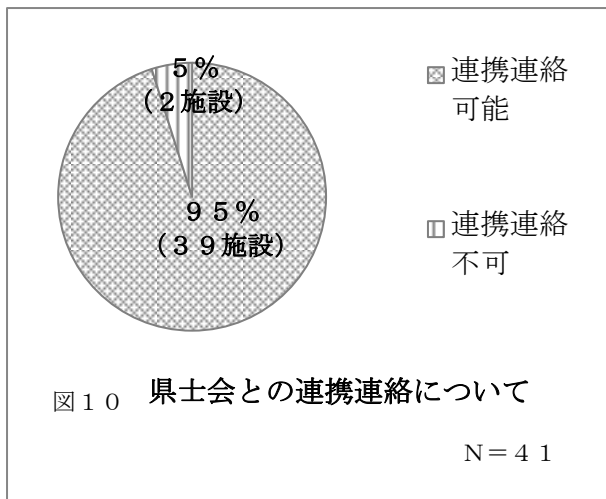
「STが勤務していない施設」は、千葉地域、印旛・山武地域、夷隅・長生・市原地域、君津地域が多かった。

特に、夷隅・長生・市原地域は多い傾向にあった。

「STが勤務している施設」は東葛地域南北部、香取・海匝地域ではSTが多かった。

特に東葛地域北部は多い傾向にあった(図9)。





**(8) 県士会との連携連絡について**

S Tが勤務している41施設において、県士会との「連携連絡可能」は39施設、「連携連絡不可」は2施設であった。「連携連絡不可」は週0.5時間のみの勤務形態によることが理由であった(図10)。

**(9) 連携連絡可能な方法の内訳について**

「HP掲載+研修会の誘い+諸連絡可能」は18施設、「HP掲載のみ可能」は12施設、「HP掲載+研修会の誘い可能」は6施設、「HP掲載+諸連絡可能」は1施設、「研修会+諸連絡可能」は1施設、「無記入」は3施設であった。

県士会活動(研修会の誘い・諸連絡)に約2/3以上の施設が連携・連絡は可能であった。

「HP掲載」は殆どの施設が可能であった(図11)。

**(10) 自由記述** 以下の意見があった。

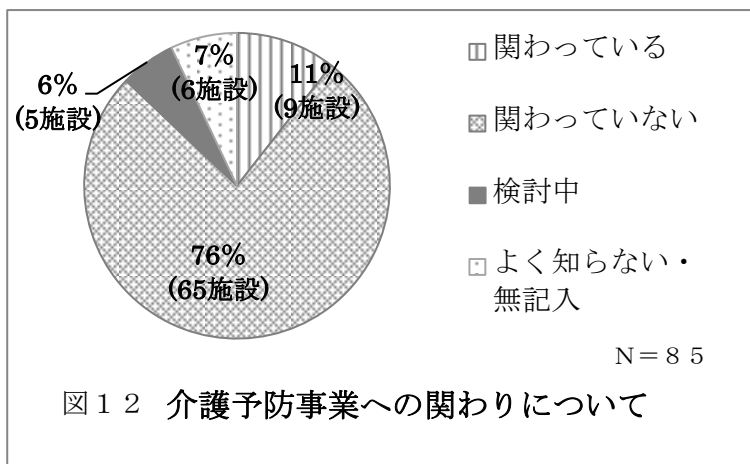
S Tの応募に関して
<ul style="list-style-type: none"> <li>・S Tの応募がない。必要性を認識するが人材が足りない。多くのS Tが地域に出るようにご協力をお願いします。</li> <li>・老健に興味のある方を是非紹介して欲しい。</li> </ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの施設にS Tがいるのか、が分かるのは役に立ちます。印旛山武地域にはS Tが少ないので増えて欲しいです。</li> <li>・S T勤務施設の実際のS T業務内容の詳細を知りたいです。</li> <li>・S Tのいる施設が解って助かりました。我々も参加できるような勉強会等があれば、ぜひ教えていただきたいと思います。</li> </ul>

## 2. 地域支援事業について

### 介護予防事業への関わりについて

「関わっていない」が65施設、  
「関わっている」が9施設、  
「検討中」が5施設であった（図12）。

「関わっている」施設の具体的な内容は、  
2施設が「口腔機能向上のための教室への関わり」であった。その他は施設として「転倒予防・介護予防教室への関わり」であり、STは関与していない、またはSTが不在であった。



## 3. STの地域とのつながりについて

### (1)地域のST同士の交流の有無

「ある」は28施設、「ない」は12施設であった（図13）。

### (2)地域別 交流の有無

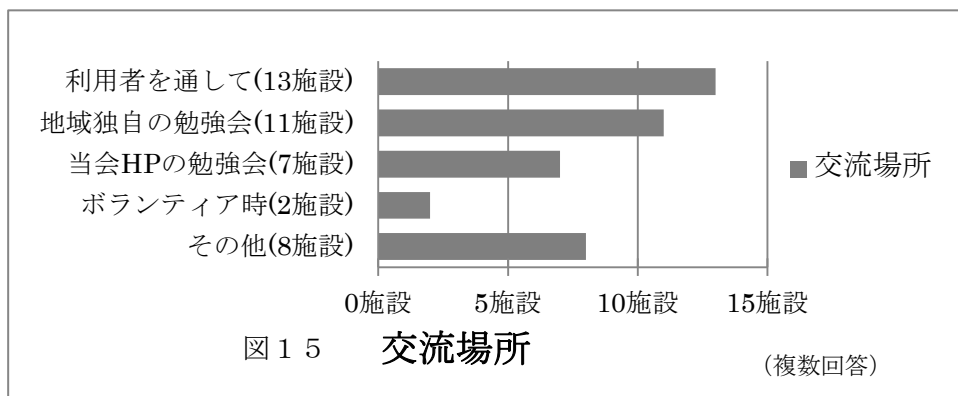
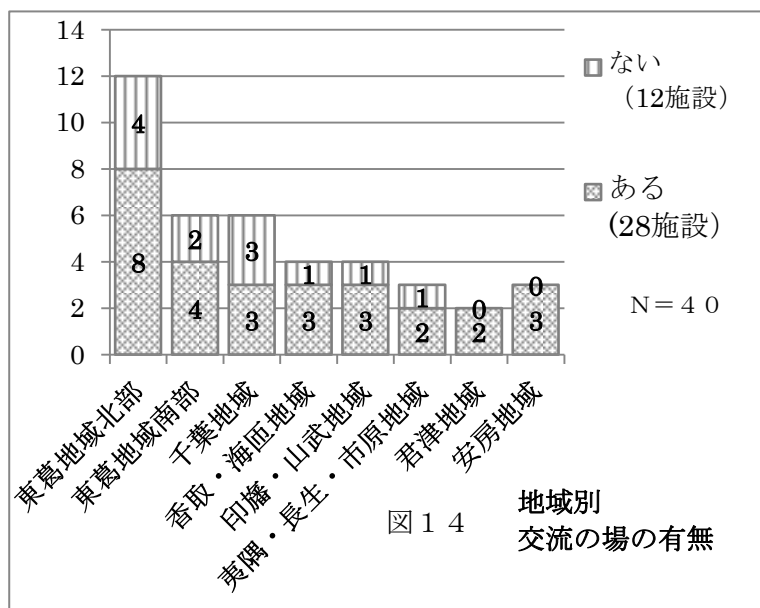
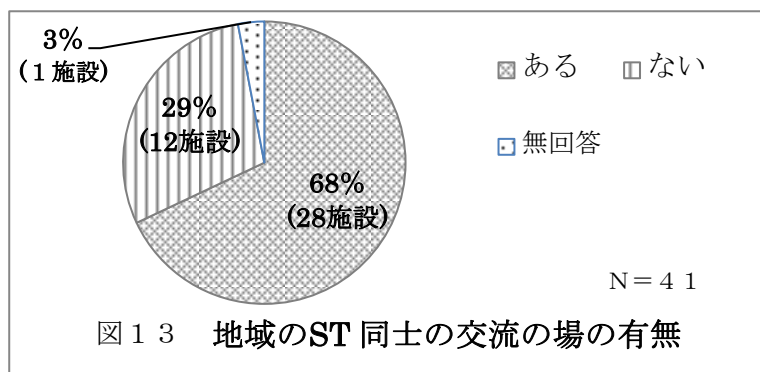
東葛北部が最も多く「ある」と答えた（図14）。

### (3)交流場所

「利用者を通して」13施設、  
「地域独自の勉強会」11施設、  
「当会HP掲載の地域勉強会」7施設、  
「ボランティア時」2施設、  
「その他」8施設であった。（図15）

「その他」では、失語症友の会活動時、  
系列グループ施設内において、香取海浜地域独自の懇親会、安房地域独自の勉強会・交流会を検討中、市内リハ協議会において等があった。

「ない」の具体的な内容は、「近隣にST  
在籍施設がない」「情報が無い」「協会等の公的な交流の場がなくなった」等であった。

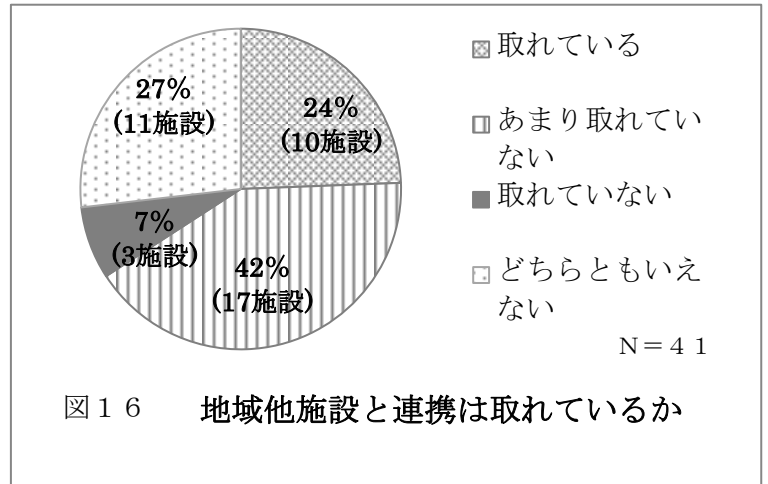


#### (4)地域他施設(病院、他老健、デイサービス、居宅介護支援事業所等)との連携は取れているか

「取れている」は10施設、  
「あまり取れていない」は17施設、  
「取れていない」は3施設、  
「どちらともいえない」は11施設であった(図16)。

「取れている」施設では、具体的には、ケアマネジャーとの連携や担当者会議の場があげられた。

また、「あまり取れていない」施設では、サマリー等の書面のみ、相談員を介するため詳細が伝達しにくい、業務多忙で直接的な情報交換ができていない等があげられた。



#### (5)「どのようなことで地域との連携が必要と感じるか」

以下のような回答の傾向がみられた。

- ・利用者の情報共有
- ・より詳細な食形態やコミュニケーション方法など
- ・地域活動の充実 (STの専門領域に関する情報提供)
- ・在宅支援
- ・病院、施設情報 (利用者ニーズに合った施設を探すため)

### 【まとめ】

#### 1. アンケート調査について

アンケート回収率は、昨年平成25年度が61.2%、平成26年度が59.9%とほぼ変わらないが、昨年に比し返信数が82施設から85施設と増加している。また、全地域で半数以上の回収率であった(図1.2)。

#### 2. STについて(勤務の有無・形態、職務内容、対象領域、地域性)

STの勤務の有無は、「勤務している」は48%(41施設)、「勤務していない」は52%(44施設)と、返信のあった施設の半数でSTが勤務していた。また、昨年の「勤務している」38%(31施設)より、施設数が増加していた。これは、今年度のアンケート継続で、新たな施設から返答が得られた等が、増加の要因と考えられた。

勤務形態は、多い順に「常勤」は71%、「非常勤」は26%、「常勤と非常勤」は3%、と昨年度と同様変わらなかった。

常勤の人員は、ほとんどが1名であった。また非常勤も昨年度同様、約3割弱を占めていた。

STが勤務していない理由は、「他職種優先」がもっとも多く、次に「応募がない」であった。STの退職に伴い、その後応募がなく、STが勤務していない施設が複数あった(図3.4)。

職務内容・対象領域は、昨年度同様、入所・通所を兼務し、成人言語・認知、摂食嚥下、発声発語機能面を対象にしている施設が多かった(図5.6)。

地域性では、全地域にSTはいるものの、東葛地域北部が最も多く、夷隅・長生・市原地域が少ないといった地域特性があった(図7・図8・図9)。

#### 3. 県士会との連携連絡について

STが勤務している多くの施設は、「HP掲載+研修会の誘い+諸連絡可能」での連携連絡が可能であった。特にHP掲載は殆どの施設が可能であった。(図10・図11)

#### 4. 地域支援事業について

今年度は新たに、市町村の地域支援事業（介護予防事業）への関わりについて設問した。

結果は、全体の76%が関わっておらず、言語聴覚士の専門領域での関わりはわずか2%（2施設）であった。アンケート回答の中には「地域住民へ嚥下障害やコミュニケーション障害等の講座開催などの地域活動に携わりたい」という積極的な意見が一部見られたが、地域への活動にほとんど関わっていないのが現状であった。

##### 【参考：地域支援事業（介護予防事業）とは＞】

65歳以上の高齢者が、介護が必要にならず地域で健康な生活を続けていけるように、各市町村が主体となって行っている事業で、介護予防教室や講演会、専門職による訪問指導・相談などがある。

要支援・要介護に陥るリスクの高い高齢者を対象にした二次予防事業と、活動的な状態にある高齢者を対象として、できるだけ長く生きがいを持ち地域で自立した生活を送ることができるようになることを支援する一次予防事業で構成されている。

介護予防への取り組みとして、日本言語聴覚士協会では以下のように、協力できる内容をホームページにて公開している（一部抜粋）。<https://www.jaslht.or.jp/kaigoyobou.html>

##### <言語聴覚士が協力できる内容>

###### ○提供できる技術の内容

###### 通所型介護予防事業

聴覚、口腔機能・嚥下摂食機能の評価と予後予測

###### 訪問型介護予防事業

保健師と同行訪問し①聴覚の評価や補聴器等の助言指導

②口腔機能・嚥下摂食機能の改善に向けた助言指導

###### 介護予防普及啓発事業の介護予防教室等

①摂食・嚥下障害、聴力の低下がある者などに対するコミュニケーションに関する指導

②口腔機能向上教室での口腔体操の指導、講演、定期評価など

###### 地域介護予防活動支援事業

地域の失語症友の会など地域活動組織への支援・協力等

###### 地域ケア会議

###### ① 地域ケア個別会議

摂食・嚥下障害、聴覚の評価や聴力の低下がある者などに対する  
コミュニケーション方法に関する助言・指導

###### ② 地域ケア推進会議

1：摂食嚥下障害者に対するケア提供の在り方の助言

2：聴力の低下のある者に対する助言・指導（補聴器の適合を含む）の助言

3：聴覚・コミュニケーション障害者が利用しやすいコミュニティ活動支援  
（失語症等の友の会活動や会話パートナー養成等を基盤として）

## 5. STと地域のつながりについて

STを対象に設問した「地域とのつながりについて」は、まず、交流の場の有無では全体の68%があると回答し、各地域での顕著な差は見られず、STの在籍数の多少に関わらず、なんらかの交流の場が設けられていた。

具体的な内容は、利用者を通しての交流（情報交換等）が最も多かったが、地域勉強会などの私的な研鑽の場や友の会活動なども多く、STの個人的な活動の場で行われている傾向がみられた。

地域他施設との連携では、「取れている」理由は、情報が十分取れている、担当者会議の場など制度を活かしている場合であった。「あまり取れていない」理由の中には、書面での情報不足、業務多忙で詳細を問い合わせる時間がない、同一法人内では取れているが他施設とは取れていないなどの施設間での差などもあげられた。

また、常勤・非常勤の勤務形態による顕著な差は見られず、常勤で「あまり取れていない」と回答した割合が最も高かった。

さらに、「どのようなことで地域連携が必要と感じるか」の自由記載からも、全般的に詳細な情報の不足感があった。

具体的には、退院時はもちろん、転所時、在宅復帰時、ショートステイ時、複数サービス利用時などがあげられた。生活期におけるサービスは多様で、必要な情報収集に苦慮している面がみられた。

今後、生活期の各情報提供先に必要な情報をまとめて記載できるツールの検討や、交流の場の継続拡大、顔の見える関係作りのためにも、参加機会が確保できる環境整備（担当者会議等の公的な場も含めて）などが課題として考えられた。

さらに、STの職種そのものや、介護保険下でのSTの役割といった啓発活動の必要性が考えられた。

### 【おわりに】

得られた情報を、今後当会の介護保険委員会の活動につなげてまいります。あわせて、当会の活動の中で人材育成や職場環境を整えるための取り組みを強化してまいります。

ご協力頂いた皆様に心から感謝を申し上げます。

どうぞ当会ホームページに掲載された「言語聴覚士がいる介護老人保健施設一覧表」をご活用下さい。

（一般社団法人 千葉県言語聴覚士会 介護保険委員会）